



順光寺だより

第6号

2021(令和3)年3月31日発行



コロナ禍での報恩講 2020(令和2)年11月8日、順光寺報恩講法要の様子。感染対策を万全にしてお勤めいたしました。

住職挨拶

順光寺住職 籠 純吾

慈光照護のもと、皆さまにおかれましては、ますますご健勝のことと存じます。

新型コロナウイルス感染症の拡大が収束の兆しを見せない中、ご心配な日々をお過ごしのことと思います。

当順光寺においては、密を避け、感染対策を徹底し、仏事を執り行っています。住職として、できる限り門信徒の皆さまのお気持ちに添えるような取り組みを進めております。コロナ禍における仏事についてお困りごとがありましたら、お気軽にご相談ください。

さてこの度、10年以上の長きにわたり順光寺総代長をお務めいただいた福井幸隆氏をご退任されました。

2009(平成21)年に竣工した庫裡増改築工事、2019(令和元)年に竣工した本堂改修工事といった大きな事業を推進され、また、時代に即した組織体制を構築するための改革を行うなど、順光寺の運営にご尽力をいただきました。この場をお借りして、深く感謝の意を表します。

新総代長には、福井昭夫氏(本堂改修委員長)にご就任いただくことになりました。新総代長と力を合わせ、今後の寺院運営を強化すべく新たな組織づくりに取り組んでいきます。

「住職と総代長は『お寺の両輪』である」と言われます。新総代長のお力添えをいただきながら、順光寺の更なる発展に精一杯のことをさせていただきます。引き続きご指導ご鞭撻をいただきますようお願い申し上げます。 合掌

総代長退任のご挨拶

順光寺前総代長 福井幸隆

寺報「順光寺だより」第6号が発行の運びとなりました。編集委員の皆さまのご尽力に感謝申し上げます。

さてこの度、一身上の都合により、順光寺総代長を退任することとなりました。在任中はひとかたならぬご厚情を賜りましたこと、厚く御礼申し上げます。

在任中は、2009(平成21)年の庫裡増改築工事、2019(令和元)年の本堂改修工事に携わり、また、本堂落成慶讃法要・住職継職奉告法要をお勤めすることができました。どの事業も門信徒の皆さまのご支援ご協力あってのものであり、改めて厚く御礼申し上げます。

門信徒の皆さまには、引き続き順光寺の護持発展にご尽力いただきたく存じます。今後とも変わらぬご指導を賜りますようお願い申しあげ、ご挨拶とさせていただきます。

総代長就任のご挨拶

順光寺総代長 福井昭夫

この度、順光寺総代長に就任いたしました。門信徒の皆さまのご協力をいただきながら、住職とともに寺院の発展に精一杯努めてまいります。何卒よろしくお願い申し上げます。

福井幸隆前総代長は、長年にわたり順光寺の運営に携わり、時代に即した組織改革を進めるなど、将来を見据えた礎を築かれました。誠に尊敬の念に堪えません。

前総代長のご意向を踏まえ、順光寺の運営強化を図るため、新しい組織体制の構築について、総代会で検討を進めています。

社会情勢の変化に伴い、寺院を取り巻く環境も変わり、多くの課題を抱えています。

将来にわたる順光寺の発展のため、皆さまのお力添えを賜りますようお願い申しあげ、就任のご挨拶とさせていただきます。

順光寺トピックス

感染症予防の対応

順光寺においては、門信徒の皆さまのご意向を尊重し、法務を執り行っています。

また、浄土真宗本願寺派の「法事・法要 勤修のための留意点(ガイドライン)」に基づき、「3つの密」(密閉・密集・密接)を避け、感染対策を徹底しています。

順光寺の本堂では、次のような感染症予防策を講じています。

参拝席の距離の確保

ソーシャルディスタンスに配慮し、椅子を配置します。



法要中の換気

本堂の戸を開け、換気を行います。



消毒液の設置

本堂にアルコール消毒液を用意します。



マスクの着用

「咳エチケット」を徹底するため、僧侶も外陣ではマスクを着用します。

本堂のインターネット環境を整備しました

コロナ禍で、オンライン会議システムが普及しています。順光寺のご法事でも、タブレットやスマートフォンを使って、県外のご家族がリモートで参拝されるケースが増えてきました。

そういった状況を受け、順光寺のネットワーク環境を充実させるため、本堂のWi-Fi工事を行いました。

本堂の梁に高速ネットワーク対応の無線ルーターを取り付けました(写真参照)。併せて、庫裡にWi-Fiスポットを設けましたので、建物内であればどこでも安定した速度で通信できます(5GHz帯利用可能)。

ゲストネットワークからインターネットに接続可能です。タブレットやスマートフォンで、

Zoom・Cisco Webex・Face Timeなど、オンライン会議システムを快適にお使いいただけます。ぜひご利用ください。

※ネットワークのSSID・パスワードを本堂に掲示しております。



ご門徒の活動

連研を受講して

杠 佳子さん

2019 (令和元) 年度、松江組の連研 (門徒推進員養成連続研修会) を受講された杠さん。12回の講義を受講された感想・抱負をお伺いしました。(聞き手: 住職)



「連研」について (浄土真宗本願寺派ウェブサイトより)

「連研」の正式名称は、「門徒推進員養成連続研修会」です。

「連研」がめざすのは、僧侶と門信徒がともに「現実の私と社会の問題を法に問い、聞き、語り合う」ことで、互いに念仏者としての自覚にめざめ、「御同朋の社会をめざす運動」(実践運動)を推進していくことです。

「連研」は、講義形式だけでなく、「話し合法座」も行われます。僧侶が一方的にお話しすることが多いご法話と違い、お互いの意見を「聞き合う」ことによって、答えの出なかった人生の問いや、お互いの思いを共有することができる場が「連研」であり、「話し合法座」です。

連研を受けようと思ったきっかけは？

順光寺の坊守さんより「門徒推進員養成連続研修会」の案内をいただきました。保育所という職場しか知らない私にとっては、とても興味深いことでありました、また、宗派は違うのですが祖父が寺の住職で、幼少期の夏休み中は祖父母のお寺でいとこと遊んだ思い出があります。本堂でかくれんぼをしてよく叱られました(笑)

それから、杠の父・母・主人を送り、順光寺にお世話になることと、総代という身に余る役をいただき、もっと学ばなければいけない、という思いで参加しました。

連研を受講中、嬉しかったことは？

嬉しかったことになるのでしょうか。皆さまのお心があたたかく感じました。

私は幸いにも、いろいろな方との出会いの中でありがたい思いをさせていただいているのですが、阿弥陀如来さまのおそばで語りあえるのは嬉しいことであり、あたたかさを感じました。

連研の講義で印象に残っていることは？

6月～12月で6回の講座を受けました。私は仕事をしていますのですが、連研の日は休暇をとりました。参加することが苦ではなく、むしろ楽しみだったような気がします。

法話をしてくださる先生はわかりやすく、またわかりやすいようにお話しくださいました。班に分かれても話し合いがしやすいように、また、まとめの時にも私たちの話し合いが良かったというようにして下さったことは、次の問の話し合いに繋がりました。

話し合法座で印象に残っていることは？

私は、40代から70代の方5名の方と班を組んで、12の問について話し合いをしました。始めは自分の人生の中で辛かったり、苦しかったりという内容が多かったのですが、共感しながら互いに思いを伝える中で、「みんな同じなのだ」という意識が芽生えたように感じます。“生きていくことは生かされている”その思いが大切という思いになりました。

参加者の皆様が真剣に取り組んでおられるのには感心しました。私ならすぐふざけたり、「どーでもいいよね!」という気持ちになるのに、問に対して前向きになる気持ちの話が勉強になり、印象に残っています。

連研終了後、自分の中の変化は？

連研は終了したのですが、もう少し続けて受講し、慣れた頃に、もっと自分のわからない素朴な疑問も聞けたのかな、と思います。多分、自分の中で自分なりに知ろうとする気持ちが出てきたようです。これはまた、順光寺のご住職にお聞きしたいです。自分を見つめなおす機会になりました。素敵な人との出会いに感謝です。

最後に、今後の抱負をお聞かせください

本来ならば、京都の西本願寺に行かせていただいて門徒推進員中央教修に参加していたはずですが、新型コロナウイルス感染症のために今回は中止になりました。

機会があれば、必ず参加しますが、このような未曾有の経験をするのは誰も初めてで戸惑うばかりです。何事もなく過ごしていたことの幸せを感じます。今こそ念仏者の一人として阿弥陀如来さまに手を合わせることの大切さを実感します。

行事報告

コロナ禍での報恩講



2020 (令和2)年11月8日(日)、順光寺の報恩講法要をお勤めいたしました。浄土真宗の寺院においては、年間を通して最も大切とされる法要です。感染予防のため、今年は午後法要・一座のみとしました。

ご講師は、波北 顕 師 (江津市・光善寺ご住職)。阿弥陀さまのおはたらきを優しく丁寧に話しいただきました。

飛沫防止のため、ご講師の演台に、アクリルボードを設置しました。



帳場(参拝受付)にはアルコール消毒液を用意し、消毒にご協力いただきました。



ソーシャルディスタンスに配慮して椅子を配置しました。法要中は本堂の戸を開け、換気を行いました。

また、ご参拝いただいた皆さまへのお茶のご接待は行わず、ペットボトルのお茶を用意しました。



皆さまに感染予防のご協力をいただき、無事に報恩講をお勤めすることができました。ようこそお参りくださいました。

元旦会

2021 (令和3)年1月1日(金)の朝10時から、感染対策を万全にして新年のお勤めをいたしました。



盆前清掃

2020 (令和2)年8月8日(土)の朝、ご門徒の皆さまによる毎年恒例の一斉清掃。密にならないように注意しながら、本堂・境内の掃除や仏具のお磨きを行っていただき、気持ち良くお盆を迎えることができました。今年は、朝食として市販のおにぎりとお茶をお持ち帰りいただきました。

※3月にお勤めする予定でありました「春彼岸・永代経法要」については、新型コロナウイルス感染症が拡大する状況を受け、中止いたしました。

仏事Q&A

ご法事の持ち物

「ご法事で、何か用意しておくものはありますか？」
ご法事の日が近くなってくると、お電話でよくご質問をいただきます。

浄土真宗のご仏事では、**お念珠**、**お経本（聖典）**をご用意ください。また、**門徒式章**をお持ちの方はご持参ください。

※**お経本（聖典）**と**門徒式章**は、本堂にもご用意しております。

お念珠

仏さまに礼拝する時に欠かせないのが念珠です。珠数(あるいは数珠)とも言いますが、浄土真宗では“念珠”という言い方が多く用いられています。

浄土真宗では、念珠を、煩惱を滅する道具として用いるのではなく、また、読経や念仏の回数をかぞえるために使うものでもありません。ただ、阿弥陀さまに合掌礼拝する時の礼儀として用いているのです。

また、念珠は大切な法具ですから、お経の本（聖典）と同様、畳や床に直接置いたり、投げたりはしないようにしてください。(浄土真宗本願寺派ウェブサイトより)

お経本（聖典）

釈尊が説かれたお経をはじめ、親鸞聖人や歴代宗主、七高僧が著されたさまざまな典籍などが収められているのが「聖典（経本）」です。

聖典は、私の「いのちのよりどころ」をあきらかにしてくださっているものですから、特にていねいに取

り扱います。畳や床の上などに直接置かず、かならず適当な敷物や机などの上に置くようにしましょう。また、聖典をひらく前と閉じた後には、聖典を頂くことを忘れないようにしましょう。

「頂く」とは、お敬いのこころを表していますので、聖典の下が概ね目線の高さになるぐらいを目安にして、静かにもち上げるとよいでしょう。(浄土真宗本願寺派ウェブサイトより)

門徒式章

仏事に際しては、僧侶も門徒も服装をととのえます。

門徒の方は、念珠とともに「門徒式章」を着用し、威儀を正しておまいりしましょう。また、門徒式章の首後ろ側部分に下がり藤紋があるときは、上下逆にならないように気をつけましょう。(浄土真宗本願寺派ウェブサイトより)



2019 (令和元)年11月、「本堂落成慶讃法要・住職継職奉告法要」の記念品として日常勤行聖典と聖典入れを皆さまにお渡しいたしました。お参りの際、ぜひお使いください。

📣「順光寺だより」編集委員募集中!

本紙は、順光寺がより「開かれたお寺」となるため、門信徒の皆さんへの情報発信を目的として年1回発行している会報です。

毎号、順光寺の行事報告やトピックス、門信徒の皆さまの活動を紹介しています。寺報編集委員の皆さまのご協力をい

ただきながら、企画・取材・原稿作成・編集を行い、全門信徒に郵送でお配りします。

編集委員会では、さらに充実した紙面にするため、編集に携わってくださる門信徒の方を随時募集しています。順光寺の門信徒であれば、どなたでも構いません。興味のある方は、寺宛にご連絡ください。

※諸般の事情により本紙発行が遅くなり、ご関係の皆さまにご迷惑をおかけしましたことお詫び申し上げます。

浄土真宗本願寺派順光寺寺報
順光寺だより 第6号

2021 (令和3)年3月31日発行

編集 順光寺寺報編集委員会

発行 浄土真宗本願寺派
豊饒山 順光寺

印刷 株式会社谷口印刷



浄土真宗
本願寺派

順光寺

揮毫：細田青秀氏（順光寺ご門徒）

〒690-0881 松江市石橋町44

TEL 0852-23-3718 FAX 0852-67-3276

E-mail info@junkouji.net

公式サイト <https://junkouji.net>

順光寺

検索

junkouji.matsue

@junkouji

junkouji_matsue



フォト法話

Photo by Nagatani Jungo

ご法事について

法話・写真 瀧 純吾（住職）

ご法事は、亡き人とご縁のある方々が集まり、仏さまを讃え、仏さまの願いをお聞かせいただき、私の歩む道に気づかせていただく仏教儀式です。

ご法事でお勤めする「仏説阿彌陀經」というお経には、阿彌陀如来さまの極楽浄土の世界が記されています。この阿彌陀經の中に、「俱会一処」というご文があります。

くえいっしょ 俱会一処

このご文には、「俱ともに一つの処ところで会いましょう」という仏さまの願いが込められています。「一つの処」とは、阿彌陀さまのお浄土の世界のことです。

亡くなられた方は、阿彌陀さまのおはたらきによってお浄土に仏さまとしてお生まれになります。そして、お浄土から私を見守り、願いをかけてくださっています。

「お浄土でまた会おうね。先に行って待ってるからね。それまでは、いただいた命を大切に生きておくれ。」

お釈迦さまは「生老病死」の四苦を説かれました。生まれ、老いること、病気にかかること、死んでいくこと—これらの苦しみから逃れることができずに、苦しみや迷いの中で右往左往しているのが私の本当の姿です。

そんな私に、仏さまはいつでも優しく寄り添ってくださいます。

ご法事では、亡くなられた方のご命日をご縁とし、仏さまを讃え、仏さまの願いをお聞かせいただきます。そして、自分自身の本当の姿を知り、自分の歩む道に気づかせていただきます。大切にお勤めいたしましょう。

※ご法事は、ご命日にお勤めするのが本来ですが、あまり離れていなければ別の日をお選びいただいて結構です。ご命日を過ぎてお勤めしてはいけないということもありません。日程を決められるときは、お気軽にご相談ください。